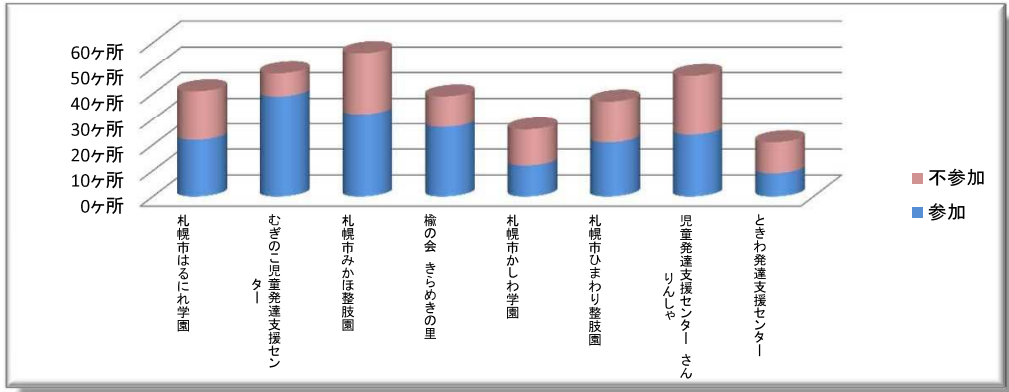


平成26年度第3回児童発達支援センター研修 集計結果

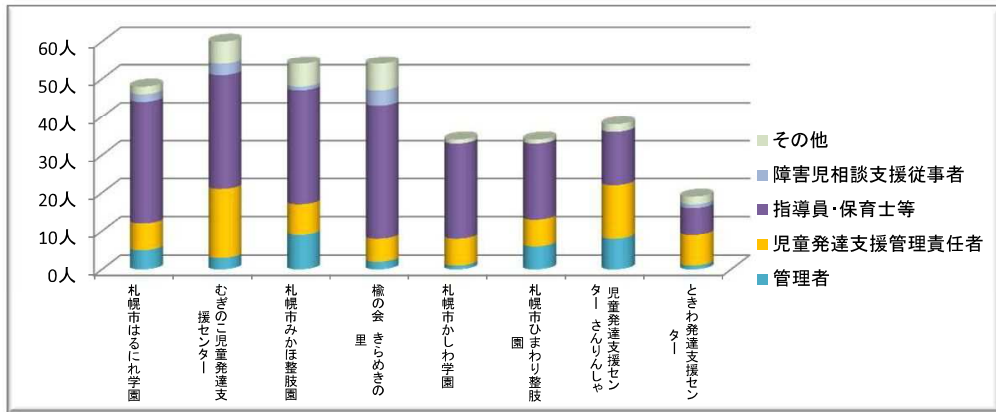
1 参加事業所数及び参加者内訳

	対象事業所数	参加事業所数	参加割合	参加者					参加者計
				管理者	児童発達支援管理責任者	指導員・保育士等	障害児相談支援従事者	その他	
札幌市はるにれ学園	41ヶ所	22ヶ所	53.7%	5人	7人	32人	2人	2人	48人
むぎのこ児童発達支援センター	48ヶ所	39ヶ所	81.3%	3人	18人	30人	3人	6人	60人
札幌市みかほ整肢園	56ヶ所	32ヶ所	57.0%	9人	8人	30人	1人	6人	54人
榆の会 きらめきの里	39ヶ所	27ヶ所	69.2%	2人	6人	35人	4人	7人	54人
札幌市かしわ学園	26ヶ所	12ヶ所	46.2%	1人	7人	25人	0人	1人	34人
札幌市ひまわり整肢園	37ヶ所	21ヶ所	56.8%	6人	7人	20人	0人	1人	34人
児童発達支援センターさんりんしゃ	47ヶ所	24ヶ所	51.1%	8人	14人	14人	0人	2人	38人
ときわ発達支援センター	21ヶ所	9ヶ所	42.9%	1人	8人	7人	1人	2人	19人
計	315ヶ所	186ヶ所	—	35人	75人	193人	11人	27人	341人
		平均	57.2%	10.3%	22.0%	56.6%	3.2%	7.9%	

《参加事業所数》



《参加者数》



2 グループワーク

(1) グループ編成数等

	グループ数	1グループ平均	他事業所ファシリテーター
札幌市はるにれ学園	7	6.9人	ハッピークローバー・わんぱくキッズ・べるにこっと・いとでんわ・あさひ西相談支援センター
むぎのこ児童発達支援センター	8	7.5人	スマイル、ココロ、むう、にじの☆、ヴェルデ篠路、ゲーチョキパー第2、li~
札幌市みかほ整肢園	8	6.8人	わくわく・よつば・なでしこ・とらちゃん美香保 リアンエンジェル・ちゃちゃベリー うみのいる
榆の会 きらめきの里	7	7.7人	榆の会プレイルームにれのかい 榆の会ど〜なっつ
札幌市かしわ学園	5	6.8人	
札幌市ひまわり整肢園	5	6.8人	
児童発達支援センターさんりんしゃ	7	5.4人	ちいさなおうち、ほっと、ヴェルデ明日風
ときわ発達支援センター	5	3.8人	
平均	6.5	6.5人	

(2) 内容
事例を通じた個別支援計画（児童発達支援計画）の作成

3 グループワークで出された主な意見

〈立案された目標〉

- ・ 順番を守って活動する、社会の中でのルールを身につける
- ・ 環境に慣れ活動に楽しむことができる、集団に適応していく
- ・ 見通しをもてるようになる、課題に長時間取り組めるようになる
- ・ お友だちとの関わりを楽しむ、お友達と仲良くあそぶ
- ・ 自分の思いを言葉で表現できるようになる、ボタンを最後までつけることができる
- ・ 食べ物を外に出さずに食事ができる、食べこぼさずに食べられるようになる、食事中は最後まで着席して食べる
- ・ 偏食を減らす、好きな食べ物を増やす、食べる意欲を育てる

〈支援方法〉

- ・ 順番について ～ 待ち時間を短くする、待ち場所の明瞭化、待ち時間を楽しめるようにする
- ・ 対人関係・コミュニケーション ～ 職員が仲立ち・代弁する、上手くできた時に褒める成功体験を積む(気持ちに寄り添い共感する、認めてあげる)
- ・ 食事について ～ 励ます、環境設定を整える、クッキング活動の設定
- ・ 見通し ～ 予め内容を伝える、視覚的に伝える
- ・ その他 ～ わかりやすい設定、視覚的な支援、スケジュール表の活用、小集団でのあそび、スモールステップで次に進めていく

〈その他の意見〉

- ・ 保護者のニーズと子どもの実際の様子にギャップがある時など、難しい部分もあるが、保護者のニーズを確認して出来るだけ取り入れるようにする。
- ・ 個別支援計画を立案するうえで、保護者の要望を中心に考えるところが多かったが、生活年齢ではなく、児の姿から発達を捉えて考えていくことが大切。

4 研修会に係る参加者の感想・意見

- ・ 同じ事例に基づいて発達をとらえ、支援方法を考えたときに、とらえ方やおさえるポイント、アプローチが事業所ごとに様々で、ちがう考え方に触れることで視野が広がった。
- ・ 児童発達支援計画をたてるうえで、どこに注意して注目すべきなのかわかり今後の参考になった。
- ・ 児童発達支援計画の重要性を認識し、アセスメントの視点などを学ぶことができた。
- ・ 他事業所の児童発達支援計画に対する考えを知ることができて良かった。
- ・ 目標をたてること、支援内容を考えること、日々悩むことは多いが、アセスメントからそのお子さんに必要な支援を具体的にたてる大切さを改めて感じる事ができた。
- ・ 本人の良い所を見つけ、支えるという事を再確認できた。
- ・ 子どもを複数のスタッフで見えていくことが大切だと感じた。
- ・ 相談支援、児童発達支援等それぞれ支援者と連携してスキルアップをしていきたい。

- ・研修会を通して障がいや遊び等の事について学ぶことが出来る。これからも現場で活かせることを学んでいきたい。
- ・他の職種と話せて楽しかった。
- ・一つの（同じ）事例で話し合うことができてよかった。
- ・グループワークの時間が足りないので、時間を長めにとって欲しい。